

82-1 鶴見線の不思議な駅と総持寺をたずねる (3.5km)



鶴見線全図

【街歩きの概要】

ときには、地図測量の者がする街歩きメニューからはやや縁遠い、変わったことかもしれないと思うものである。

そこに何があるかと問われても困るけれど、そして「鉄ちゃん」などにはごく普通に知られているのだろうが、少し珍しい駅がいくつもある鶴見線へ、そしてついでのようにして総持寺をたずねてみる。

【道順】

JR 東京駅 11:03→鶴見駅 11:29 分着・11:40 分発→浜川崎駅着 11:53 分着・12:13 発→扇町駅 12:17 着・12:20 発→浅野駅 12:29 着・13:07 発（あるいは新芝浦駅まで歩き、新芝浦駅 13:07 発）→海芝浦駅着 13:11 分着・13:25 発→国道駅 13:35 分着→総持寺へ→鶴見駅（2015.03.01 の平日時刻表で）

【街歩き解説】

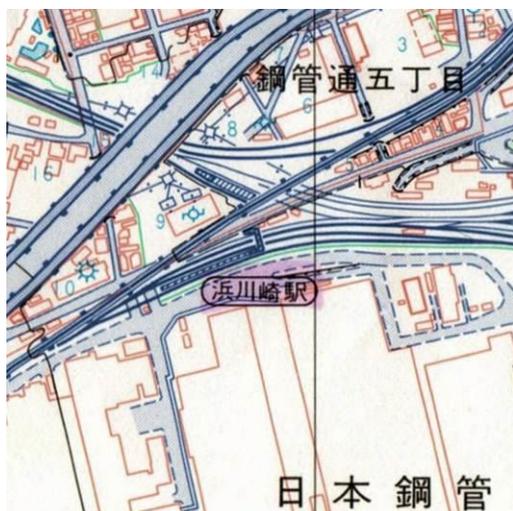
①道路を横切らないと隣のホームへ行けない駅（浜川崎駅）

今回の街歩きは、いつもどおり地図を広げて計画を立てるのだが、それだけではいけない。目的地までの列車の本数が限られているので、時刻表も広げて吟味することから始める。

鶴見駅から浜川崎駅へ向かう。もしも浜川崎駅で、鶴見線から南武線（浜川崎支線）へと乗り換えようとする、いったん外へ出て一般道路を横断しないとたどりつかない。しかし、一般道路も構内扱いになるため、「ICカード利用での乗換者はタッチパネルにタッチしないように」とのアナウンスがうるさい。ともかく、両線のホームを行き来して見る。

その後、折角だから浜川崎駅から扇町駅へ向かう。辺りの駅はどこもそうだが、浜川崎駅も工場地帯の真ただ中であって、乗降客は工場関係者が主だから日中の車内は人数が少ない。

後でわかることだが、それでも他の駅に比べれば、一般客もいくらかいる方である。



浜川崎駅辺り ・ 浜川崎駅（鶴見線）



浜川崎駅（南武線）は 一旦改札を出て道路の向こう側にある



扇町駅辺り ・ 扇町駅、日中は人が無い

②三角形になったプラットホームがある駅（浅野駅）

次は、扇町駅から浅野駅に向かう。同駅の鶴見線と同支線との間には、三角形のホームが存在する。地図にある三角形になった建物状のものはホームを表現している。現地には屋根が存在しないこともあり、たとえあったとして居住空間ではないから、建物であらわしているのは正しくない。

それはともかく、三角ベースのようになったホームは、ごく珍しい。ごく横長の長方形になっているのが普通である（浅野駅の地図にも、本線の北側にある）。そして、ここでは同じ鶴見駅へ向かうとしても、海芝浦駅方向からの列車と、浜川崎方向からの列車では、異なるホームから乗車することになる。



昭和駅 ・ 南渡田運河周辺には工場が広がる



武蔵白石駅 ・ 境運河



安善駅 ・ 旭運河では漁船らしきものが見える



浅野駅あたり ・ 浅野駅は三角形のホームが特徴的

③歩いていけない駅と乗り降りできない？駅（海芝浦駅）

浅野駅から支線に乗り換えて、海芝浦駅へ向かう。しかし、待ち合わせ時間もあるので、となりの新芝浦駅まで歩くことにする。その後新芝浦駅から海芝浦駅まで乗車する。

地図で明らかなように、新芝浦駅から隣の海芝浦駅までは、歩いてそれほど遠くはない。しかし、一般者は歩いてたどり着くことはできない。周辺はすべて東芝の工場敷地であって、許可なく立ち入りできないからだ。工場内の道を進もうとすると守衛さんが飛んで

きて入場を断られる。

ということで、一般者が海芝浦駅へ行くには、どうしても電車で向かうしかない。
海を眺めながら、海芝浦駅行きの列車が着くのを待つ。
のだが、行っても駅の構外に出られない？

その後海芝浦駅に到着したとしても、改札口の先は東芝海浜事業所の守衛さんが詰めていて関係者以外は改札口から数歩しか進めない。駅の構外に出られないのだ。

数歩しか進めないのだから、一般者は事実下車も乗車もできないということ。

一応スイカにタッチして戻ることになる。切符を入手したければ、守衛前の自動券売機で購入することになる。

海芝浦駅は、東芝の社員または関係者でないと改札より先には進めないという不思議なJR駅なのだ。



新芝浦駅から海芝浦駅辺り



新芝浦駅

左は運河方向から、右は東芝敷地から海芝浦方向

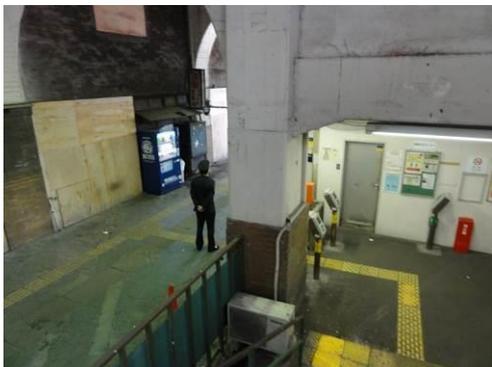


海芝浦駅

ホームはごく普通なのだが、改札口のすぐ先は東芝工場のゲートがある



国道駅辺り



不思議な雰囲気 of 国道駅

④ 鉄道駅なのに国道という名の不気味な駅（国道駅）

海芝浦駅から国道駅へもどる。

第一京浜国道をまたぐ位置にある国道駅は、本来はスイカのタッチパネルだけがある無人駅のはずだが、鶴見駅からごく近いこともあって不正乗車を取り締まるためだろうか、笑顔を振りまきながら見張る駅員が立っていた。

そしてあたりのガード下は、ちょっと不気味な雰囲気でもあり、昭和初期の風情が漂う。その雰囲気のことから、しばしば映画・ドラマのロケ地として使用されるのだとか。

こうなると、工場地帯の真ただ中にある鶴見支線の扇町駅など珍しくもない。そして、武蔵白石駅から徒歩にすれば何時でもたどりつくのだけれど(武蔵白石駅から徒歩約10分)、日中は電車の時刻表をよく検討して行動しないと、たどりつくのも帰ってくるのも難しい大川駅がある。しかも、大川駅を発車した列車は、武蔵白石駅構内を通過して、次の安善駅でなければ停車しないという奇妙なことになっている。そのとき、大川駅から浜川崎駅方向へ向かうとき、料金のことで武蔵白石経由で計算するように配慮されているという。ともかく、大川駅訪問はパスした。

ちなみに珍名と思われる「国道」駅だが、類似名の駅は「阪神国道」があり、これも駅名通りに、すぐ南側で「阪神国道」(国道2号)と交差する。今回の範囲では、「扇町」も同名の駅が大阪にある。「浅野」は「信濃浅野」が、「海芝浦」「新芝浦」のほかには「芝浦ふ頭」が、そして、「武蔵白石(むさししらいし)」にいたっては、「白石(JR北海道)」「白石(札幌市営)」「白石(宮城)」「白石(熊本)」「肥前白石(いずれも「しろいし)」があり、同名の駅は意外と多い。



總持寺 ・ 鶴見駅

⑤ 總持寺

気分直しに。總持寺を訪ねる。

總持寺の正式名は、「諸嶽山總持寺」という。その開創は、700年余もの昔にさかのぼるのだという。

能登半島の一角、櫛比庄(現在の石川県鳳至郡)に諸嶽観音堂という霊験あらたかな観音大士を祀った御堂があった。その住職である定賢権律師が、ある夜に見た夢の物語から、總持寺のあゆみが始まったという。その大本山總持寺は、13000余ヶ寺の法系寺院を擁していたが、明治31年(1898)4月13日夜、本堂の一部より出火して、猛火は全山に拡がり、伽藍の多くを焼失した。ときの本山貫首は焼失した伽藍の復興のみでなく、明治40年3月に官許を得て、この地に總持寺を建立したのだという。

境内には、ラッド博士の碑(米国人、教育家。外国人として初めて旭日勲章を授かった

人) そして、石原裕次郎の墓もある。



海芝浦駅から京浜運河方向 ・ 大川駅辺り

+* * * + オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu +* * * +